

第3章 第1次計画の取組の評価

1 数値目標

数値目標については、第1次計画において、平成28年の自殺死亡率19.1から令和5年には16.2、令和8年には13.3へ減少させることを目標としていましたが、評価時点の令和4年では26.8と基準値より増加しており、目標値を達成することができませんでした。

	基準値 (H28年)	目標値		現状値 (令和4年)
		(令和5年)	(令和8年)	
自殺死亡率 (人口10万対)	19.1	16.2	13.3	26.8

2 達成度の判定基準

第1次計画の策定時に設定した評価指標の達成状況を評価します。

評価方法は、基準値（策定時の現在値）から目標値に向けた実績値の進捗状況（達成度）を算定し、AからEの区分で評価しています。

■達成度の判定基準

達成度	
A	目標値に達した
B	目標値に達していないが改善傾向にある
C	変わらない（明確な改善も悪化もみられない）
D	悪化している
E	評価が困難または未実施

3 評価の総論

策定時の基準値と直近の実績値を比較	項目数
A 目標値に達した	14項目（58.3%）
B 目標値に達していないが改善傾向にある	6項目（25.0%）
C 変わらない（明確な改善も悪化もみられない）	0項目（0%）
D 悪化している	3項目（12.5%）
E 評価が困難または未実施	1項目（4.2%）
合 計	24項目（100.0%）

策定時の基準値と直近の実績値を比較した結果、24項目中目標値に達した項目が14項目、目標値に達していないが改善傾向にある項目が6項目、変わらない項目が0項目、悪化している項目が3項目、評価が困難または未実施の項目が1項目となっています。

半数以上の14項目はA評価と目標を達成していますが、B評価の6項目とD評価の3項目につきましては様々な事業を通じて改善するよう努めていきます。

また、数値目標である自殺死亡率については、令和4年時点では26.8で未達成となっています。

4 評価指標の達成状況

(1) 5つの基本施策

ア 地域におけるネットワークの強化

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
むつ市いのちを支えるこころの健康づくり計画推進委員会開催	H30 年度設置	年 1 回	年 1 回	A
むつ市いのちを支えるこころの健康づくりネットワーク協議会開催	H30 年度設置	年 1 回	年 1 回	A
庁内関係各課相談体制強化検討会開催	—	年 1 回	未実施	E

イ 人材育成の強化

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
5 年後の市職員のゲートキーパー養成講座受講率	—	70%	33.2%	B
ゲートキーパー養成講座受講後のアンケートで「自殺対策の理解が深まった」と答えた人の割合	—	70%以上	99%	A
ゲートキーパー養成講座受講者数(累計)	—	172 人	305 人	A
認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	3,299 人	4,800 人	5,955 人	A

ウ 住民への啓発と周知

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
こころの講演会の開催回数	—	年 1 回	年 1 回	A
こころの講演会アンケートで「理解できた」と答えた人の割合	—	70%以上	97%	A
不安や悩みを相談できる相談窓口を知っている人の割合（壮年期生活調査）	男性 33.5% 女性 44.9%	60%以上	男性 57.4% 女性 60.2%	B
こころの体温計総アクセス数	11,096 件	13,000 件 以上／年	18,022 件	A
広報誌、ホームページへの掲載回数、更新回数	広報誌掲載 1 回／年 ホームページ 更新 1 回／年	広報誌掲載 2 回以上／年 ホームページ 更新 1 回以上／年	広報誌掲載 2 回 ホームページ更新 5 回	A

エ 生きることの促進要因への支援

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
生後 4 ヶ月までの全戸訪問事業	100%	100%	94.5%	D
公民館・図書館利用者数	164,385 人	181,000 人	147,170 人	D
各団体・各サークル利用者数（公民館・図書館）	30,164 人	31,015 人	34,595 人	A
一般介護予防事業	18 カ所	28 カ所	37 カ所	A

オ 児童生徒のSOSの出し方に関する教育

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
SOSの出し方教育に係る研修講座	—	年 1 回	年 1 回	A
いじめの解消状況（解消率）	100%	100%	98.5%	D

(2) 3つの重点施策

ア 高齢者対策

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
一般介護予防事業 [再掲]	18 カ所	28 カ所	37 カ所	A
在宅医療・介護連携推進事業	年1回	年2回	2回	A

イ 生活困窮者対策

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
生活困窮者自立相談支援事業の窓口を知っている人の割合	—	70%以上	30.6%	B

ウ 勤務・経営対策（事業所・労働者）

指 標	基準値 (H29 年度)	目標値	実績値 (R5 年度)	評価
不安や悩みを相談できる相談窓口を知っている人の割合（壮年期生活調査） [再掲]	男性 33.5% 女性 44.9%	60%以上	男性 57.4% 女性 60.2%	B
すこやかサポート事業所認定数（累計）	28 事業所	65 事業所	62 事業所	B
職域への健康教育件数	27 事業所	40 事業所	36 事業所	B

5 これまでの自殺対策の取組と今後の課題

本市では、「誰も自殺に追い込まれることのないむつ市」の実現にむけ、平成31年3月に「むつ市いのちを支えるこころの健康づくり計画（むつ市自殺対策計画）を策定し、「地域におけるネットワークの強化」「人材育成の強化」「住民への啓発と周知」「生きることの促進要因への支援」「児童生徒のSOSの出し方に関する教育※」の5つの基本施策と「高齢者対策」「生活困窮者対策」「勤務・経営対策（事業所・労働者）」の3つの重点施策を推進してきました。

しかしながら、自殺死亡率は令和4年には26.8と増加に転じており、国や青森県と比較し高い状況にあることから、取組をさらに強化していく必要があります。

性・年代別の平均自殺死亡率は、男女ともに全国と比較し高く、なかでも男性の20歳代と70歳代、女性は50歳代が高い状況にあります。

職業別では「無職」の割合が半数以上を占めており、原因・動機では、「健康問題」「経済・生活問題」が多くなっています。特に、「経済・生活問題」については、令和元年以降、増加傾向となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、市民生活に様々な問題が生じていた状況から、現在は社会的制限や制約が解除されているものの、いまだに社会的な影響は続いていることを念頭におき、自殺対策の取組を推進していく必要があります。

このような状況から本市では、「高齢者」及び「生活困窮者」への対策を引き続き実施していくとともに、若い世代や女性の自殺死亡者も増えている現状から、令和4年10月に国が示した「自殺総合対策大綱」を踏まえた支援についても強化していく必要があります。

児童生徒のSOSの出し方に関する教育

いのちや暮らしの危機に直面したとき、誰にどうやって助けを求めればよいのか具体的かつ実践的な方法や、辛いときや苦しいときに助けを求めてもよいということを学ぶ教育。